

HuRP通信

HuRP通信
2012年

4月号 (第68号)

<http://www.hurp.info>

金大中図書館（ソウル）の1階ロビー



金大中元大統領の功績と 「金大中図書館」

—HuRP 主催出版記念講演会のご案内—

HuRP では、これまでも韓国と日本の歴史を知り、東アジアの平和について考える企画を行っており、会員の方々ほか、多数の方々に参加していただきました。この度、金大中元大統領の功績と、韓国の民主化に光をあて、ブックレットの刊行と講演会を企画しました。ぜひお誘いあわせのうえ、ご参加ください。

HuRP では、ブックレット『金大中図書館に行ってみよう！』の刊行を記念して、講演会を行います。

講演者は、各国軍事政権時代に被告人とされた金大中氏の弁護人を務め、氏の最も信頼を寄せた弁護士・韓勝憲氏と、ソウルの「金大中図書館」館長を務める、金聖在氏です。

- ・日時 6月9日（土）14:00～16:30
- ・会場 全水道会館

<交通案内>

JR 水道橋駅東口(お茶の水寄り) 徒歩2分
都営三田線 水道橋駅A1出口 徒歩1分
(次頁の地図をご参照ください)

・事前予約制 (先着70名)

下記の憲法研究所宛てに、ファックスもしくはメールにてお申し込みください。

・参加費 500円

※参加者には、ブックレット『金大中図書館に行ってみよう！』を特別価格500円で販売します。

・プログラム

- ▼講演1「金大中元大統領と韓国の民主化」
韓勝憲氏（韓国弁護士）
- ▼講演2「金大中図書館と金大中政権」
金聖在氏（金大中図書館館長・元韓国文化相）
金大中図書館とブックレットの紹介





「憲法裁判の現場から考える」 (2011年12月、成文堂から刊行。
編者は水島朝穂・早大教授、金澤孝・早大講師。定価は2,100円)。

「人権は尊重されなければならない」「平和な世の中であってほしい」と、誰もが考え、願います。しかし、「人権とは何か」「平和とは何か」と問われたときの答えは、人によってさまざまではないでしょうか。人権尊重や平和主義が日本国憲法の基本的な価値であることは知られていることですが、それが実際の社会の中でどうなっているのか、という認識も多様でしょう。

この本は、人権や平和にかかわる問題が、社会の注目を集めた裁判でどうなってきたのかをたどる講演録集です。その裁判の当事者や関係した法律家などが、人権や平和ということに、具体的にどう向き合い、主張したのが綴られていて、その現場の熱い思いも伝わってきます。

HuRP 理事でもある水島朝穂・早大教授はこの本を編むとともに、長沼ナイキ基地訴訟第一審で自衛隊を違憲とし、平和的生存権の権利性を明らかにした福島重雄裁判長の判断を、本人からの聞き取りの結果をふまえて紹介しています。また、その判決がこんにちに

至っても関連裁判に大きな影響を及ぼしていることを説得的に伝えています。憲法9条の果たしている役割を学ぶことができます。

朝日訴訟を提起した朝日茂さんの養子となり、茂さんの死後に裁判を引き継いだ朝日健二さんは、その経緯・思いとともに朝日訴訟のたたかひの成果と意義を語っています。憲法に謳われた生存権を学べます。

新井章弁護士は32年に及んだ教科書検定違憲訴訟(家永訴訟)の経過とそのたたかひの到達点、そしてそこからくる今後の課題を提起しています。原告となった家永三郎教授の思いや決意も紹介しており、心動かされます。表現の自由、学問の自由について考えさせてくれます。

喜田村洋一弁護士は在外邦人選挙権制限違憲訴訟の経過と成果を語っています。当事者の方々の粘り強いたたかひに、人権を守るたたかひへの展望と勇気をもらう内容になっています。民主主義・国民主権について考えさせてくれます。

この本の第一章では、奥平康弘さん(東大名誉教授)が憲法裁判をめぐる原理的問題と最近の裁判所の動向について語っています。人権や平和ということが、日本国憲法体制の中でどのように展開してきたのか、この本を通して語り合っていきたいものです。

(大川)

♪ オノQの今月の一曲 ♪

“世界はそれを愛と呼ぶんだぜ”

(サンボマスター, 2005)



ボーカルの山口隆史

・愛と平和を叫ぶバンド

今回注目したいのは、ドラマ「電車男」(フジ系列、2005年7月)の主題歌を歌い、一躍有名になったサンボマスターというバンドです。表題のドラマ主題歌では「愛と平和!」と連呼し絶叫する彼らですが、「ラブ&ピース」というフレーズは幾度となく歌われ聞き覚えがあるものの、日本語で「愛と平和」と真正面から歌われると、なにやら聞き慣れないような気もしてきます。しかし、この聞き慣れなさに、サンボマスターの想いと存在感がこめられているように感じます。

ラブ&ピースといえど何か美しいメッセージで、とりあえずラブ&ピースといっておけば格好がつくというように、ロック最盛期の60年代以降、ラブ&ピースというフレーズは一種のお題目になってしまった感があります。いわば愛と平和を歌うことも、ある種の消費文化の対象、ともすれば一種の「臭さ」を醸し出すフレーズになってしまったという経緯が指摘できると思います。

折しも就職氷河期、9.11、自衛隊のイラク派遣など不安定な社会状況の中で音楽活動を続けた彼らは、そんな社会情勢とは無関係に、美しい言葉として消費されてきたラブ&ピースの受け取られ方に危機感を抱いていたのでしょう。彼らが発信したかったのは、現代日本の「愛と平和」とは何かです。それを伝えるには、英語ではなく、やはり日本語によらなければならない。そんな思考が彼らの標榜する「新しき日本語ロック」という言葉にも表れているように感じます。

愛と平和というのは、単なるメッセージではなく、そこには具体的な怒りと抵抗があるのではないのでしょうか。だからこそ、ボーカルの山口隆は当時自衛隊のイラク派遣にも積極的に発言をしていました。また、あえてエレキギターの爆音とともに絶叫するというスタイルをとっているのも、愛と平和に込められた、美しさだけではない、怒りと抵抗の表れといたら、これはいいすぎでしょうか。

特筆すべきは、現代の愛と平和を歌った音楽が大衆にも受け入れられたという事実です。こうした音楽が受け入れられていることは、商業化されたとされるロックの世界にひとつの希望を見る気がします。

★編集後記★

今年のHuRP主催イベントが、ついに決定しました。『金大中図書館に行ってみよう』刊行にあわせて、韓国の民主化に学ぶことのできる有意義な講演会です。講演者のおふたりも、直接お話が聞ける機会は貴重ですので、ぜひ奮ってご参加ください。お会いできるのを楽しみにしています。

さて、年度がかわりましたので、賛助会員の方々にはお願いです。今年もNPO法人HuRPを、ぜひ会員として支えていただきたく、会費の納入をお願いします(同封の郵便局の払込票をご利用ください。手数料がかかりません)。上記のブックレット完成と講演会のほか、本年は「イタイイタイ病」についての企画も始動します。どうぞよろしくお祈りします。(A)

特定非営利活動法人「人権・平和国際情報センター」(HuRP:ハーブ)
Human Rights and Peace Information Center Japan (HuRP)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 2-17-8 丸十ビル 402号
TEL/FAX 03-6914-0085 e-mail hurp@hurp.info HP <http://www.hurp.info/>